

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

茨城県鉾田市

#### ○学校名

鉾田市立鉾田北中学校

#### ○学校のURL

[http://www.city.hokota.ed.jp/junior\\_high\\_school/hs\\_hoko\\_north/](http://www.city.hokota.ed.jp/junior_high_school/hs_hoko_north/)

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】全学年各2学級 【特別支援学級】2学級 【合計】8学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】203人（平成25年11月1日現在）  
（内訳：1年生70人、2年生57人、3年生76人）

#### ○学校の教育目標と人権教育に関する目標

##### 【学校教育目標】

知性を磨き ともに支え合う たくましい生徒の育成  
～ 誇れる自分 誇れる仲間 笑顔のあふれる学校 ～

##### 【人権教育に関する目標】

- ・人間の尊さについて自覚をもたせ、お互いを思いやる心を育てる。
- ・お互いに理解を深め、認め合い学び合いながら望ましい人間関係を育てる。
- ・適切な言動がとれる判断力を育てる。
- ・福祉の心を育て、実践力を育てる。
- ・障害者や高齢者に対する正しい認識を育てる。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

- 平成24・25年度 茨城県人権教育研究指定校として指定を受け、研究主題を「自分に誇りをもち、人を大切にする生徒の育成 ～互いに認め合い、支え合い、学び合う活動を通して～」として研究を推進した。
- 学校の教育活動全体を通じて、生徒一人一人の人権感覚を高め、自他ともに大切にする具体的な態度や行動に表すことを目指し、研究・実践を推進した。
- 人権尊重の視点に立った学校づくりとして、人権が尊重される「学習活動づくり」「環境づくり」「人間関係づくり」の3つの柱で取り組んだ。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### (1) 本校の実態

本校生徒の実態は、素直な生徒が多く、あいさつや身だしなみもきちんとしている。一方で、「自分に自信がもてず、自己を表現することが苦手である」「自分の言動が他者に及ぼす影響についての想像力が十分とはいえず、他者との人間関係づくりをうまく構築できない」といった課題がある。

そこで、これらの課題を改善するためには、一人一人を大切にし、自他の違いやよさに気付く力を育て、コミュニケーション技能を身に付け、互いによりよく生きようとする力を育てる人権教育を推進することが重要であると考えた。

#### (2) 育てたい資質・能力と目指す生徒像

本校では、生徒の豊かな人権感覚を育むために、以下の育てたい資質・能力と目指す生徒像を設定して研究を推進していった。

育てたい資質・能力	目指す生徒の姿
自尊感情と自己肯定感	・肯定的な言葉で自己評価、相互評価ができる生徒 ・グループ内の話合いで、自分の考えを述べるができる生徒
他尊感情と他者肯定感	・相手に向かって心を込めてあいさつができる生徒 ・グループ内の話合いで、話し手を見てうなずきながら聞くことができる生徒
コミュニケーション能力	・時と場合に応じた話し方・接し方ができる生徒 ・グループ内の話合いで、根拠を明確にして話すことができる生徒

#### (3) 取組の内容

##### ア 人権が尊重される学習活動づくり

生徒が学校生活の中でもっとも多く時間を過ごすのが学級であり、授業の時間である。一緒に学習課題を追究する「学び合い」の形態を授業の中に導入することで、自然に生徒同士の対話が増え、自尊感情や自己肯定感、他尊感情や他者肯定感、コミュニケーション能力が高まることを期待できると考えた。

##### (7) 授業づくりの4つの視点

- ① 「授業に参加している」という実感をもたせる。
- ② 「自分が必要とされている」という実感をもたせる。
- ③ 一人一人を大切にする姿勢づくりをする。
- ④ 「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気づくりをする。

##### (4) 授業における具体的な支援

- ・既習事項や生活体験、興味・関心等に基づいた課題設定の工夫をする。
- ・学習意欲や習熟度等を把握し、複数の課題やヒントカードを準備する。
- ・互いの発言を最後まで聞く習慣を育てる。

- ・承認・称賛・励ましの言葉かけをする。
- ・互いに尊重し合う人間関係づくりを行い、自由に発言できる雰囲気づくりをする。
- ・他者の発言や作品のよさに気づき、学ぼうとする態度を育てる。

#### (ウ) 授業改善に向けた取組

##### ① 相互授業参観

教師相互の授業参観を年間延べ50時間程度実施している。

これは、生徒の学びの様子を把握し、授業改善に対する教師の意識の高揚を促すことをねらいとした。参観の観点を明記した評価カードを準備し、1時間を通して複数の教師が参観し、評価と気付いた点をコメントにして授業者にフィードバックすることで、授業に対する改善点を明確にする手立てとした。

##### ② 互いに認め合い、支え合うグループ学習の実践

全ての授業で自分の考えや思いを伝え合ったり、共感的な態度で傾聴したり、称賛したりするグループでの学び合いを実践した。生徒同士協力して自分たちで課題を解決できるようになることを目標として取り組んだ。

ペア学習やグループ学習を中心に授業展開を進めるなかで、話し手を見てうなずきながら最後まで話を聞くこと、根拠を明確にして相手に伝わるように話すこと、自分とは異なる考えや価値観を素直に認めることなど、人権尊重の視点を取り入れた授業づくりを進めた。



支え合って課題解決



グループでの話し合い



根拠を明確に意見交換



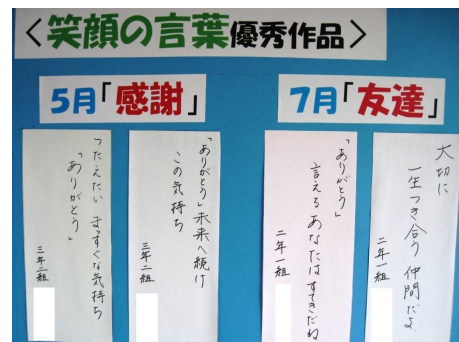
発表ボードの活用

#### イ 人権が尊重される環境づくり

生徒一人一人を大切にし、温かい気持ちで学校生活が送れるよう、「環境整備部」を中心に人権コーナーの設置や人権ポスターや人権標語の掲示、言語環境の整備を行った。

#### (ア) 人権コーナー「スマイルネット」の設置

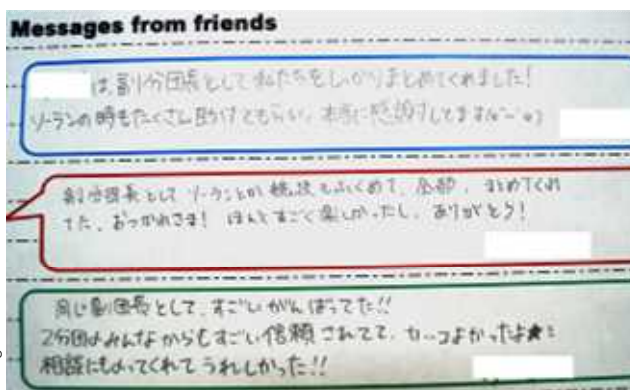
スマイルネットは、各学年廊下掲示板の一部で、人権に関する情報や生徒の作品などを掲示し、各学年の取組が分かるようにしている。



#### (イ) 教室環境の整備

##### 【励ましメッセージの掲示】

生徒の作文や感想等を掲示する際、教師だけでなく、友だちからの励ましや称賛を付けるなどして、肯定的なセルフイメージの高揚や、生徒同士の相互理解の促進を図った。



#### ウ 人権が尊重される人間関係づくり

学校行事での様々な体験活動を通して、多くの人と関わることで人間関係づくりを図ってきた。計画する段階で人権教育の意義や目的を明確にしなが、実施するようにしている。そして、貴重な活動が単発で終わらないように留意し、事前の話合いや事後の反省・一般化の段階を大切にしながら、生徒がふだんの生活の中で適用できるように努めて指導・支援に当たった。

#### (ア) 宿泊学習による仲間づくり

本校では1年生が入学後間もない4月に、仲間づくりをねらいとして県立白浜少年自然の家での宿泊学習を行っている。構成的グループエンカウンターを始め様々な活動を通して生徒と教師、生徒相互の理解と親睦を深めている。活動後、参加した生徒からは、「中学校で初めて会った友達と仲良くなれてよかった。」「先生のことがよく分かった。」との感想が多く聞かれた。

#### (イ) 車いす、アイマスク歩行体験学習

銚田市社会福祉協議会と連携を図りながら、車いす体験やアイマスク歩行体験などの擬似障害体験活動を実施している。体験的な活動を通して、人権に関する知的理解や人権感覚を養うとともに、高齢者や障害のある方々の気持ちを学び、思いやりの心を育てることをねらいとして実践している。

#### (ウ) 生徒主体の集会活動「人権フォーラム」

生徒一人一人が人権に対する意識を高め、自分の人権と他者の人権を守ろうとする態度を育成するため、人権フォーラムを開催している。「いじめについて考える」のテーマのもとに行われたフォーラムでは、生徒会役員が中心となって企画・運営に取り組んだ。

各クラスからの発表では、「いじめ根絶に向けた提言」が出された。さらに、関連するDVDを視聴し、「いじめは、恐ろしいもの」「いじめを生まない雰囲気づくりが大切」「いじめをなくすためにはみんなの力が必要」などの感想が寄せられた。

#### (エ) その他の行事について

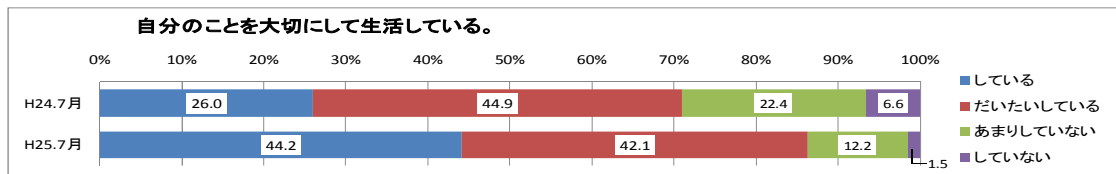
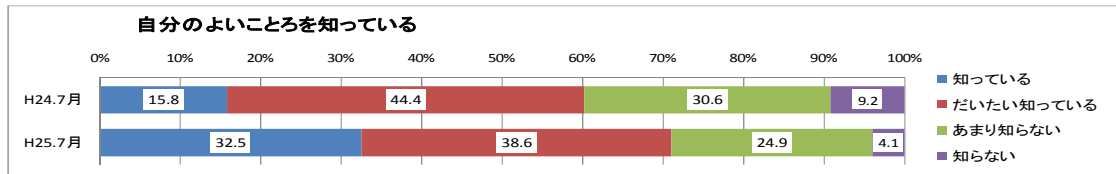
- ・人権教室【銚田市人権擁護委員会と連携】
- ・認知症セミナー【銚田市介護保健係と連携】
- ・園児とのふれあい体験学習【銚田市北幼稚園と連携】
- ・農業体験学習(1年)、職場体験学習(2年)【地域の各事業所と連携】

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

### (1) 取組の実績

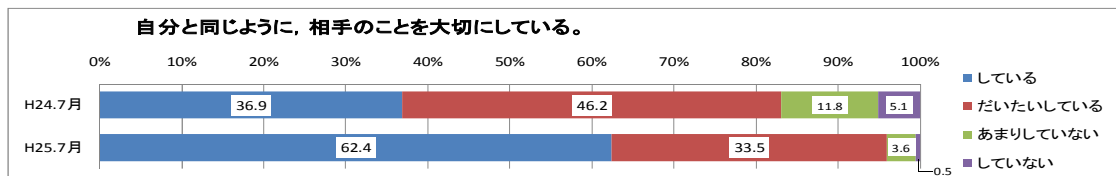
人権教育に関するアンケートを実施し、生徒の変容の調査と分析を進めた。  
(平成24年7月、平成25年7月実施)

#### ア 自尊感情及び自己肯定感について



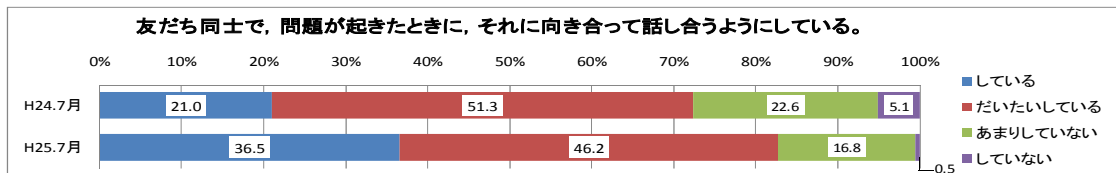
学び合う授業、一人一人を大切にされた掲示物等の効果が表れてきている。

#### イ 他尊感情及び他者肯定感について



授業の中での傾聴する姿勢づくりや、様々な体験学習を通して友だちと多く関わり合うことを体験する中で、互いのよさを認め合う態度が育ってきている。

#### ウ コミュニケーションの技能について



根拠を明確にして話し合う学習や傾聴する姿勢が身につく、コミュニケーションの技能が向上してきている。

## 5. 実践事例についての評価

### (1) 成果

#### ○ 人権が尊重される学習活動づくり

- ・ 「生徒が参加したと実感できる授業づくり」を目指し、ペアやグループ学習を取り入れた学び合いを実践していくことで、互いに認め、称賛される機会が増え、生徒の自尊感情や自己肯定感が高まってきた。
- ・ 互いに関わり合う授業は、お互いを必要とされることが前提となるため、生徒は「自分が必要とされている」と実感し、学習意欲が向上するとともに自分の考えや気持ちを表現する機会が増え、コミュニケーション技能も向上してきた。本校では特定の教科だけでなく、全教科で共通実践してきた成果が表れてきたといえる。

### ○ 人権が尊重される環境づくり

- ・ 生徒の誰もが認められ、温かい気持ちで学校生活を送れるよう人権コーナーの設置や人権ポスターの掲示により啓発を図ったことで、一人一人が大切にされる雰囲気が醸成されてきた。
- ・ 言語環境の整備として、教室に作文や感想等を掲示する際は、教師だけでなく、友達からの評語を付けるなどして、肯定的なセルフイメージの高揚や生徒同士の相互理解を図ることができた。

### ○ 人権が尊重される人間関係づくり

- ・ 1学年の入学後間もない宿泊学習により、お互いを知る機会となり、中1ギャップの解消に効果があった。
- ・ 人権教育のねらいを明確にした体験活動をする中で、生徒同士の人間関係が深まると共に規範意識が向上し、問題行動や不登校の減少に効果があったと考えられる。

## (2) 課題

- ・ 今後は、生徒たちの人権に関する実践力をより一層高めるために、授業改善を重ねるとともに学校・家庭・地域が連携し、生徒の人権について学ぶ機会を充実させていく必要がある。
- ・ 生徒が関わり合う学び合いを推進するために小中連携を図り、小学校段階から「学びの連続」を図る必要がある。
- ・ 今後も相互授業参観や研究授業を通じた授業改善を推進していくことで、教師の人権意識を維持するとともに授業力の向上を図っていく必要がある。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 銚田市立銚田北中学校

人権が尊重される「学習活動づくり」「環境づくり」「人間関係づくり」に意識的な工夫がなされており、とりわけ学校行事での、人権教育の視点を踏まえた体験活動を通して「人間関係づくり」の機会の提供に力を入れている。社会福祉協議会と連携による車いす体験、アイマスク歩行体験、高齢者や障害のある方々の気持ちに触れ学ぶ取組、地域の諸機関と連携した「人権教室」（人権擁護委員会）、認知症セミナー（市介護保健係）、ふれあい体験学習（幼稚園）などに取り組む体験学習や交流学习など、学校行事を人権教育の視点で意識的にマネジメントした実践事例である。